



但馬国府・国分寺館ニュース

編集・発行

2011.7 第25号

但馬国府・国分寺館
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町柿布 808
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112
http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/



弥生時代のコウノトリと人の共生(イラスト) / 早川和子画・奈良文化財研究所提供



速報展

こくないさいこ あしあと 国内最古のコウノトリの足跡

今年5月、大阪府にある池島・福万寺遺跡で、弥生時代前期(約2400年前)の水田に、人やシカなどとともに、コウノトリ(コウノトリ目コウノトリ科)の足跡があったことがわかりました。それは、足跡としては国内最古のものです。現在、豊岡市が取り組んでいる「コウノトリの野生復帰」のあるべき風景が、弥生時代にあったと言えます。さらにこの発見で、銅鐸に描かれている鳥の絵が、コウノトリではないかと改めて議論されるようになりました。

この機会に、コウノトリの足跡や銅鐸に描かれた絵から、弥生人が何を伝えようとしていたのかを考えてみませんか。

■会期 平成23年7月14日(木)～8月30日(火)

■展示協力機関・個人 (50音順・敬称略)

大阪府立弥生文化博物館 環境省 公益財団法人大阪府文化財センター 神戸市立博物館 奈良文化財研究所 兵庫県立コウノトリの郷公園 野洲市教育委員会 江浦 洋 岡戸哲紀 塚本浩司 徳網克己 早川和子 樋廻理恵子 松井 章 三橋陽子

いけじま ぶくまんじ いせき
池島・福万寺遺跡

池島・福万寺遺跡は、大阪府東大阪市と八尾市にまたがる遺跡で、大阪平野を洪水から守る恩智川治水緑地を造るために、1981年から大規模な発掘調査が行われています。

発掘調査の結果、縄文時代後期から今に続く人々の暮らしの場であったことがわかりました。特に、弥生時代から現在まで、水田や畠が連続して見つかっていることや、度重なる水害とそれからの復旧のあり方は、とても貴重な例として海外からも注目されています。また、最近では、弥生時代のお墓やムラの跡も発見され、地域の歴史がさらにはっきりと見えてきました。



池島・福万寺遺跡の位置

コウノトリの足跡

コウノトリの足跡は、弥生時代前期（約2400年前）の水田によって泥で覆われた直後に残されたものです。泥面に足型が付いた直後、再度洪水が起こり、足跡の凹みに洪水の砂が堆積したために保存されました。見つかった足跡には、コウノトリのほかに、人間やシカのものがああります。

同じ水田面に、人間の足跡とコウノトリの足跡が混在することから、弥生時代前期には、すでに人間とコウノトリが共生していたことが明らかになったのです。



人間やコウノトリの足跡が見つかった泥面／大阪府文化財センター写真提供



人間とコウノトリの足跡／大阪府文化財センター写真提供

Topics 現世コウノトリの足跡

現代のコウノトリの足跡（石膏型）です。左の弥生時代の足跡と比べてみてください。



どうたく えが とり
銅鐸に描かれた鳥

弥生時代に作られた鐘である、銅鐸。現代人をも引きつけてやまない不思議な魅力をもつ銅鐸は、弥生時代の人々にとっても、日常からかけ離れた特別な存在だったのでしょ

銅鐸のなかには、鳥が描かれているものがあります。描かれた鳥は、いずれも長い頸と長い脚をもち、魚をくわえているものも見られます。かつてはツル（ツル目ツル科）と考えられていましたが、1991年に根木 修氏によって、コウノトリあるいはシラサギ類のいずれかであった可能性が非常に高い、とされました。その後、コウノトリを含めたサギ類という意味で、サギ説を使ってきましたが、国内に生息するコウノトリが絶滅したこともあってか、サギとされるようになりました。

今回の成果により、弥生人とコウノトリがごく身近な関係であったことが分かり、あらためて銅鐸に描かれた鳥がコウノトリである可能性が見直されるようになりました。サギよりも大柄で美しいコウノトリが、弥生人の心象の世界で、銅鐸のモチーフになったと考えることもできるでしょう。

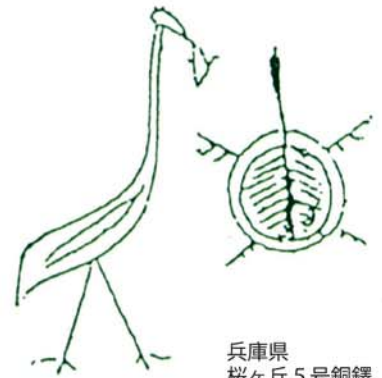
ただし、銅鐸に描かれた鳥は、単純な線だけで構成された簡単な絵のため、サギなのかコウノトリなのかを断定することは難しく、学術的な追究はまだ続いています。皆さまも、銅鐸に描かれた絵を読み解いてみませんか。



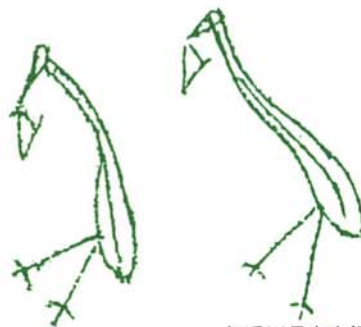
国宝 桜ヶ丘4号銅鐸（部分）／神戸市立博物館 写真提供



兵庫県 桜ヶ丘4号銅鐸



兵庫県 桜ヶ丘5号銅鐸



伝香川県出土銅鐸



谷文晁旧蔵銅鐸

銅鐸に描かれた鳥

コウノトリとともに生きる

コウノトリは、国の特別天然記念物。かつては日本全国に生息していましたが、環境変化などによって昭和46年(1971)に絶滅しました。その最後の生息地が、豊岡市だったのです。

兵庫県や豊岡市では、コウノトリの野生復帰事業を進めています。平成元年(1989)に人工繁殖に成功し、平成17年(2005)には、人工飼育をしていたコウノトリ5羽を自然界に放鳥しました。平成23年7月2日現在、43羽のコウノトリが、豊岡などの空を舞っています。さらに、コウノトリと共生したまちづくりにも力を入れています。コウノトリも住むことができる豊かな環境は、私たち人間にとっても住みやすい環境であるはずです。それは、自然環境の再生・創造だけではなく、私たちの暮らしや価値観をも見直す取り組みです。

弥生時代から、人間はコウノトリと共生し、自然に抱かれて暮らしてきました。さまざまな生物が豊かに暮らす(生物多様性)環境を創るために、コウノトリから学ぶことは数多くあります。皆さまも、生物にとってより良い環境について、考えてみてはいかがでしょうか。



大空を翔るコウノトリ



湿地の中のコウノトリ

お知らせ

- こども歴史講座「銅鐸にえがかれた絵をよもう
+銅鐸ペーパークラフト作り」

日 時：平成23年7月31日(日)
午後1時30分～2時30分

場 所：但馬国府・国分寺館 映像ホール

講 師：加賀見省一(当館館長)

参加費：無料

定 員：30名(先着順)

*事前申込みが必要です。但馬国府・国分寺館までお電話どうぞ(0796-42-6111)。

■最新情報はホームページもご覧ください。
<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>

但馬国府・国分寺館 ご利用案内



■開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

■休館日 毎週水曜日
(祝日は開館し、翌日休館)
12月28日～1月4日

■入館料 大人 500(400)円
高校生 200(150)円
小中学生 150(100)円

* () は20名様以上
* 県内小中学生は無料
* 65歳以上の方は半額



国分寺館キャラクター
たじまろ・くにひめ



ホームページQRコード